

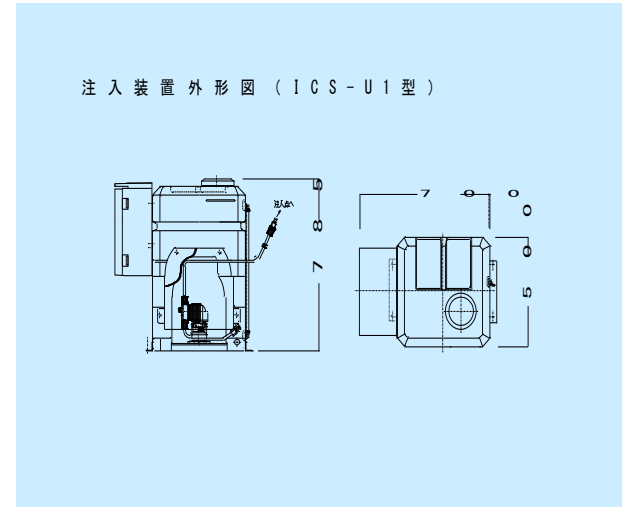
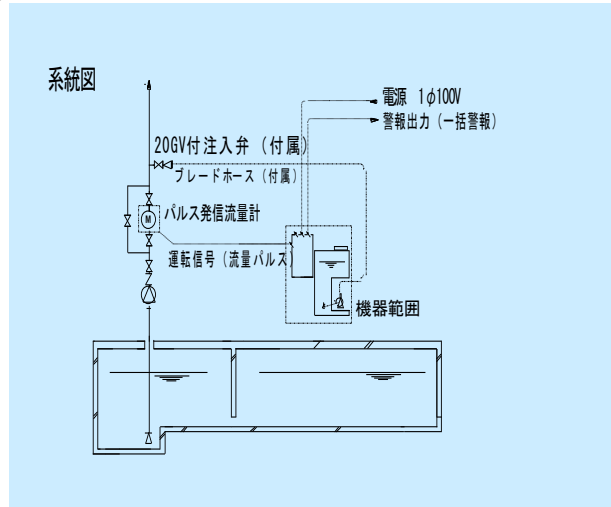
揚水ポンプ連動・定圧給水ポンプ流量比例

□ 揚水ポンプ連動

揚水量が一定の場合で、ポンプ二次側に殺菌剤を注入する場合は、揚水ポンプと連動して定量注入します。注入後の残留塩素をモニタリングする場合は、残留塩素濃度計を設置します。

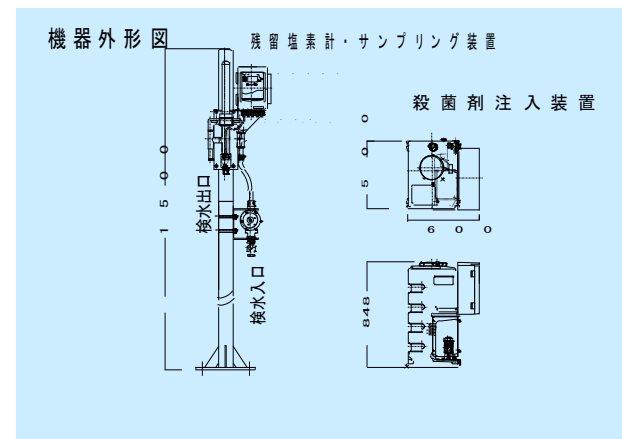
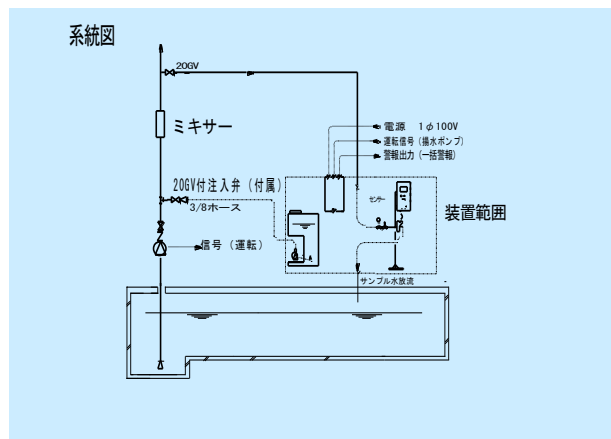
□ 定圧給水ポンプ

定圧給水ポンプなど水量が変化する場合は、定圧給水ポンプ配管にパルス発信流量計を設置し、パルス信号により流量に対応した量を注入します。パルス発信流量計は殺菌剤注入量の設定と適合する必要があるため、発信流量の設定は事前にご相談ください。



残留塩素濃度比例

□ 用水をサンプリングして残留塩素濃度を測定し、設定値上下限で注入ポンプをON-OFFする。または濃度の目標値を設定してPID制御します。残留塩素濃度は記録計に連続記録したり、信号変換で監視盤に表示することが出来ます。(記録計はオプション、濃度の電送は4-20mA信号出力します)



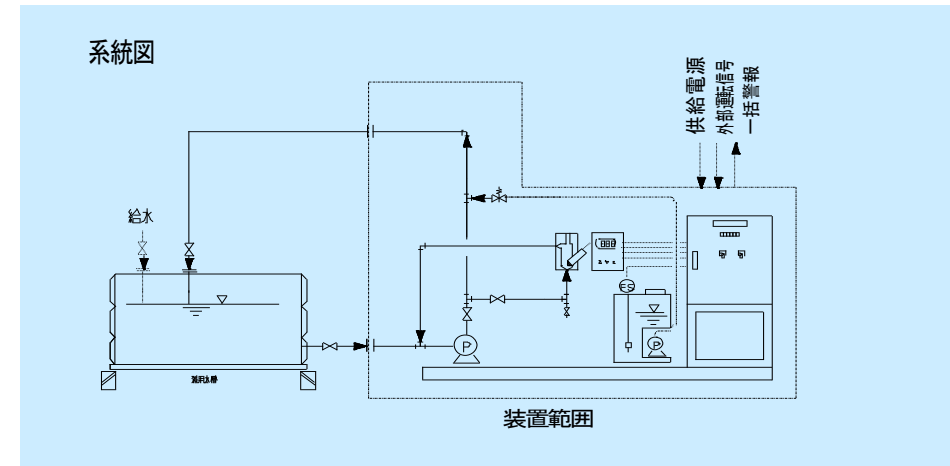
機器仕様

残留塩素計	濃度測定範囲	0.00~2.00mg/L(最小分解 0.01mg/L)
	測定精度	フルスケール±2%
残留塩素センサー	型式	3電極静止型ポーラログラフ
	標準水量	1.5~3.0 l/min
サンプリング装置	原水pH値	5.0~8.0(遊離残留塩素測定の場合)
	水温	0~40℃
	水圧・条件	0.2MPa以下、減圧弁、入口電磁弁付
注入装置	注入ポンプ吐出量	~33 mg/L
	最大注入圧力	0.98 Mpa
	塩素貯留タンク	110L(PE製)
オプション	スタティックミキサー	SUSまたはPVC(配管と同一口径)

水槽循環・濃度制御

□ こんな設備に

- ・雑用水槽など流入水の殺菌剤濃度が不足する設備
- ・上水を水源とするが時期により使用水量に変動がある為受水槽の殺菌剤濃度が不足する可能性がある設備
- ・食品製造用水等で水槽水が常に確実に殺菌されている必要がある設備

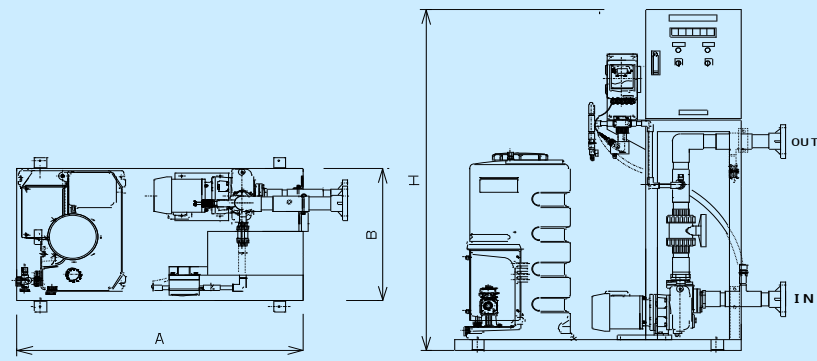


□ 装置仕様(循環水量は水槽容量と使用水量により変わります。下表の循環水量仕様は1例です。)

項目	細目	仕様
循環ポンプ	循環水量	220 l/min (機種例)
	吸い上げ能力	-4m (20℃)
残留塩素計	濃度測定範囲	0.00~2.00mg/L(最小分解 0.01mg/L)
	測定精度	フルスケール±2%
残留塩素センサー	型式	3電極静止型ポーラログラフ
サンプル水	標準水量	1.5~3.0 l/min
	原水pH値	5.0~8.0(遊離残留塩素測定の場合)
	水温	0~40℃
	電気伝導度	5~100 mS/m
注入装置	注入ポンプ吐出量	~33 mg/L
	最大注入圧力	0.98 Mpa
寸法	塩素貯留タンク	110L(PE製)
	循環配管接続口径	IN(50A) OUT(50A)
	機器重量	135Kg
	耐震設計基準	1.5G

機種選定に際しては、水槽容量、時間平均使用量をお知らせください。

装置外形図



カタログは予告なく変更する場合があります。ご使用に際しては事前にお問い合わせください